

かお・人インタビュー

2015年6月12日(金)

建設コンサルタンツ協会九州支部村島正康新支部長に聞く

透明性の高い支部運営に努め、社会的使命を果たす



今年4月の平成27年度定時総会で、九州地区の会員128社で組織する(一社)建設コンサルタンツ協会九州支部の新支部長に就任した村島正康支部長。近年は、地球温暖化が原因と考えられる集中豪雨、土砂災害などが頻発し、防災、減災に対する国民の要求が高まり、老朽化した公共インフラの点検・診断、維持管理・更新が社会的な要請となっている中で、問題解決に向けて、国や自治体関係者等のパートナーとして、連携を図り、対応策を積極的に提案していくことが建設コンサルタントの社会的使命であり、責務であるという新支部長に就任にあたっての抱負や業界の課題などについて話を聞いた。

○支部長就任、おめでとうございます。まず、抱負をお願いします

他の支部役員と力を合わせて、公平、公正かつ透明性の高い支部運営に努めていきたい。少子高齢化の社会において、建設コンサルタントは、若手技術者の育成・確保、女性技術者の活用・育成等さまざまな課題を抱えています。活発な議論を通して、ベクトルを一つに合わせ、協会関係者の皆様

の力を結集して、対応策の実行・実現に努めていきたいと思えます。協会との関わりについては、3年前に西日本技術開発の社長になり、そこで初めて国や地方公共団体といった社会資本整備に関わる業務としての関わりです。それまで電力の発電分野において、原子力の耐震などの地質、地盤調査にも

携わっていたので、ある程度の基本的なところは分かっているつもりですが、ただ、ダム、河川、橋梁、道路とかのそういった分野は業務経験がありませんので、これから勉強をしながら取り組んでいきたいと思っています。



○これからの支部活動や担い手の確保・育成などについて

7月1日に建コン本部と九州地方整備局の懇談会がありますが、九州地方整備局の方で女性と若手技術者の活用に関する31業務の

試行について、5月に記者発表があり、また、品確法の改正で将来の技術者、担い手の確保・育成ということで、若手とか、女性にも

重点が置かれている。そういった観点から九州地方整備局の方がリーダーシップを発揮され、女性や若手を活用する業務を試行的にや

ろうということで、非常にありがたいと思っています。

確かに、支部としても女性技術者も少ないし、若手技術者も少ないので、将来の担い手として育てていかないと、この業界の明るい将来もないのではないかと考えている。そのために、支部活動としてこれまで若手技術者の交流会などを実施しているが、それに加えて、今年度は行政も含めた女性技術者の交流会も予定されているので、九州地方整備局などのそういった施策に対して、しっかり期待に応えていきたい。

また、九州各県や政令市に対しては、毎年10月～11月に意見交換をやっており、要望を取りまとめ中ですが、この時期は九州地方整備局の業務発注も具体化される時期でもあり、女性、若手技術者の活用を国の仕事だけやってもだめなので、地方公共団体にも働き掛けを行っていききたい。

公共事業執行の要望については、私たちは“技術が勝負”なので、価格だけでなく、プロポーザルや総合評価方式などを採用し、技術力で受注ができるような発注をしてもらいたい。それと、将来の担

い手確保については、職場の労働環境の改善が必要であり、年度末にかなり業務量が集中するので、なるべく平準化発注に努めていただきたい。

今年5月に発足した地域部会については、改正品確法でも地域コンサルタントの育成・確保が重要な使命となっており、大きな災害が起きた時などに、地域に一番詳しい地域コンサルタントが使命感を持って、積極的に仕事をしてもらわないといけないのではないかと考えています。

○建設コンサルタントの使命、役割について

近年は、地球温暖化が原因と考えられる集中豪雨や土砂災害などが頻発し、自然の驚異から国民の生命、財産、健康、生活を守る防災、減災に対する国民の要求がますます高まっています。また、高度成長期に造られた公共インフラは、40～50年ほど経過し、老朽化しており、点検・診断、維持管理・更新が社会的な要請となっています。

このような社会からの要請に対して、事業者である国や自治体関

係者等のパートナーとして、緊密な連携を図り、対応策を積極的に提案していくことは、建設コンサルタントにとって社会的使命であり、責務であると考えます。人々の命と暮らしを守るために、私どもが惜しげもなく、専門性の高い技術力を発揮し、社会貢献を果たしていくべきだと思います。

建設コンサルタントは、そのような仕事を積み重ね、達成感を得ることができれば、自らの職業を魅力あるものと思えるのではないのでしょうか。



○建設業に対する思いは

中国の古典に「聖人が劣悪な環境で暮らす民を救うために、土を積み（築土）、木を組み（構木）、暮らしの環境を整えることにより、民は安寧に暮らすことができた」というのがあるとのこと。この築土構木から土木の言葉ができたようです。

また、ヨーロッパでは、人が住むところを城壁で囲むことによって、都市（シティ）を造った。人々は、城壁の中で食糧を生産、保管し、城壁により外敵の侵入、攻撃を防いだ。英語シティは、大勢の人が城壁の中に一緒に住むことを語源とするようです。

シティから土木に通じる「シビルエンジニア」の言葉ができたとのこと。いずれも土木は、昔から人々が安全、安心に生活する環境をつくるのに大切なものだと思います。

○趣味やモットーは

「テニスなどのスポーツ観戦」と「ゴルフ」。日本人選手の活躍を観るのが好きで、以前は「サッカー」も見ていたが、ここ最近は錦織選手の活躍もあり、テニス観戦

を欠かさないという。「昨日は雨で試合が延びたので録画して今日、ゆっくり見る予定だ」とゆるんだ笑顔の表情が印象的。リスク管理は大事だと思うので、行き当たりバ

ツタリでなく、“何事にも事前準備をしっかりとやること”と人生訓を話す。



「プロフィール」

昭和25年6月22日生まれ（64歳）。昭和48年3月に九州大学工学部電気工学科を卒業し、同4月に九州電力㈱入社。平成23年6月に取締役常務執行役員・玄海原子力発電所長を経て、平成24年6月から西日本技術開発㈱に入社。現在・代表取締役社長。福岡市東区に住む。